

気象庁の防災気象情報が新しくなりました!



令和8年5月29日に、気象庁が発表する防災気象情報の伝え方が新しくなり、約1か月が経過しました。すでに、大雨による気象情報等で、新しい防災情報をテレビのニュースなどで目にする機会も増えていると思います。しかし、これまで慣れ親しんできた情報とは表現が異なるため、すぐに定着するのは難しいと感じる方も多いでしょう。そこで、今回は、もしもの備えの1つとして新しくなった防災気象情報について一緒に学びましょう。

防災気象情報とは?

気象庁の防災気象情報とは、災害の危険度や今後の見通しを伝え、住民や自治体の避難・防災行動を支援するために、気象庁が発出する情報のことです。気象・地震・津波・火山などによって発生する災害から命や財産を守るために、気象庁が観測・予測した結果をもとに発表する情報の総称です。住民や自治体、防災関係機関が災害の危険性を早期に把握し、避難や防災対応を適切なタイミングで行えるように支援をするためのものです。

令和8年5月29日から実施された主な変更点

これまで、情報の種類が多く、避難するタイミングが直感的に分かりにくいという課題がありました。今回の改定で、住民が危険度をすぐ理解し、避難行動に移しやすいようになりました。変更点はわりと多いのですが、その多くが**名称変更**や**体系整理**と言えます。今回、変更になったものについて、主なものを紹介します。



◆「4つの災害軸」への集約

詳しくは気象庁HP「新たな防災気象情報について(令和8年~)」をご覧ください ▶

住民が避難の判断をしやすいうようにするために、「大雨」「土砂災害」「河川氾濫」「高潮」の4種類に防災災害情報を整理しました。これに伴い、「洪水注意報」「洪水警報」という名称がなくなり、大雨や河川氾濫の情報へと吸収・統合されました。

◆警報・注意報の情報名に5段階の「レベル」

避難のタイミングが分かりにくかったということから、右の表のように情報名に**レベルの数字**がつくようになりました(右表)。なお、**レベル3が、高齢者等が避難するタイミング**で、**レベル4で全員が避難するタイミング**です。そして、レベル5は、すでに災害が発生している可能性が高く、命の危険が迫っている状況になっていることを示す、大変危険なレベルを表しています。

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

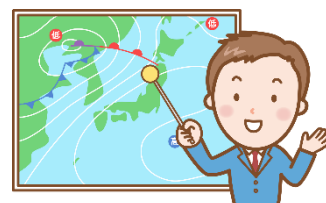
気象庁HP「新たな防災気象情報について(令和8年~)」より引用

◆「レベル4 危険警報」の新設

これまで、レベル4相当だった「土砂災害警戒情報」「氾濫危険情報」「高潮警報」などを整理し、共通して「レベル4 危険警報」という体系に統一しました。例えば、土砂災害警戒情報は、「レベル4 土砂災害危険警報」、氾濫危険情報は、「レベル4 氾濫危険警報」となります。

◆「レベル5 氾濫特別警報」の新設

これまで、大きな川の氾濫(レベル5相当)には「特別警報」という枠組みがありませんでしたが、水防法の改正に合わせ、河川氾濫の最高ランクとして新たに作られました。



おわりに

今回の改定で、避難の判断がしやすくなりました。「レベル4までに全員避難」ということで理解しておきましょう。そして、日頃からハザードマップや避難場所を確認し、気象庁の「キキクル(危険度分布)」「避難情報に関するガイドライン」などの防災情報を活用して、自分と大切な人の“命を守る行動”を取れる準備をしていきましょう。

